

船舶事故等調査報告書

平成25年12月19日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2013広第1号
事故等種類	浸水
発生日時	平成24年10月19日 11時30分ごろ
発生場所	山口県徳山下松港 山口県光市所在の大水無瀬島灯台から真方位039°480m付近 (概位 北緯33°56.3′ 東経131°56.0′)
事故等調査の経過	平成25年1月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	砂利採取運搬船 灘吉丸、483トン
船舶番号、船舶所有者等	130375、小松海運有限会社
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	機関室下の船底外板に破孔
事故等の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、海砂約1,300t及び除塩用水約350tを積載して徳山下松港へ入港し、荷役を終えて大水無瀬島東方沖で錨泊していたところ、平成24年10月19日11時30分ごろ機関室のビルジ警報装置が作動した。 船長は、機関室への浸水を認め、ポンプを使ってホールドに移送するとともに、船舶所有会社に連絡し、造船所へ向かい調査した結果、機関室内の機器の濡損はなく、主機クラッチ直下に約10mmの破孔が1か所発見されたが、金属片等は発見されなかった。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1 海象：潮汐 高潮時、潮高 約327cm
その他の事項	本船は、昭和63年7月に進水した。 本船は、平成22年3月に行われた定期検査時に機関室下の船底外板及び船底弁に破孔及び腐食が発見され、いずれも修繕されていた。 本船のビルジ警報装置は、機関室床面から約50cmの高さにビルジの水位が上昇したときに作動する設定になっていた。
分析	
乗組員等の関与	なし
船体・機関等の関与	あり
気象・海象の関与	なし
判明した事項の解析	本船は、徳山下松港において錨泊中、機関室主機クラッチ直下の船底外板に破孔が生じたことから、機関室に浸水したものと考えられる。

<b>原因</b>	本事故は、本船が、徳山下松港において錨泊中、機関室主機クランチ直下の船底外板に破孔が生じたため、機関室に浸水したことにより発生したものと考えられる。
<b>参考</b>	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・船舶所有者は、経年劣化を考慮した点検整備を行うこと。